

翔

TOBU

NO. 55

1986年 2月

百万石蝶談会

目 次

松井正人:四国・徳島・ベニモンカラス	2
松井正人:ホシミスジ飼育記録	3
野中 勝:オサムシコーナー3.医王山のアオカタビロオサムシ	4
編集部:1985年石川県昆虫界10大ニュース	6
横山 隆:Self introduction	8
田中秀夫:Self introduction	8
編集部:会員の動き・しゃばの動き	9
編集部:例会の記録(1985年12月6日の記録) ..	10

徳島駅に午後3時頃到着した。駅でマツダファミリア1500ccを借り、徳島県高の瀬峡へと向かった。途中クロネコヤマトで、採集野宿具一式を受け取り、4日分の食料と酒を買い込んだ。那賀川に沿って走っているところ暗くなり、とたんにあたりを走っていた車の影は全くなかった。暗い山道であることも手伝って、まるで真夜中を走っているような錯覚を覚えた。高の瀬峡には6時半に着いたが、さすがに真っ暗で深山を思わせた。ところが深山の林道にもかかわらず、アスファルト舗装だったり、駐車場があったり、モミジ狩りの大きなカンバンがあったり、雨戸を締め切った小屋があったりして、何だか観光地を思わせた。しかし、6時半にもかかわらず、人気は全く無く、灯りも無く、小屋は何だかハンパ風だし、おまけにカンバンはさびてハゲていたので、ここはかつての観光地だと思い込んだ。しかし舗装してあるだけに、いつ誰が入ってくるとも知れないので、さらに奥へいき、砂利道になったところで寝ることにした。7時半、溪谷の細長い空一面に星を見ながら眠りについた。

11月9日5時半起床、6時半より行動を開始した。食樹をさがせど全く見付からないので昨日の駐車場まで戻り、つり橋で対岸へ渡ることにした。(つり橋があることは、昨日見たモミジ狩りのカンバンで知っていた。)ここは白い岩が見え、崩れ落ちたまだ新しい白い岩石がゴロゴロころがっていた。入ってすぐ小さなクロウメドキを見付けたが卵は付いていなかった。更に白い岩壁の下まで行って捜していると、対岸の例のハンパ風小屋より煙りが昇りだした。気にせず今度はつり橋より下流側を捜して次のクロウメドキを見付けたが、卵は依然付いていなかった。しばらくして小屋の方をふと見ると、バアさんが掃除をしているのが見えた。やっぱりハンパ小屋だったのかと思い採卵行動に戻ると、しばらくしてキビノクロウメドキが見付かった。しめしめと卵を捜すとやっと1卵見付かった。ところが残念なことに、この卵には穴があいていた。1卵あるからには必ず近くにもあるはずで、その上へと続く壁に取り付く事にした。ややもすると落ちそうな壁を登っていくと、大きめのキビノが見付かった。ニコッと笑って良く見ると、卵はブチブチに付いているのだった。この木で約40卵程採集し、更に付近を捜して2~3本のキビノより1卵追加した。この間、対岸では車が盛んに走りだし、小屋付近もにわかになぎわいを増してきた。更に壁の上へ行こうかとも思ったが、ついにはつり橋を渡り、こちら側から河原へ降りて酒盛りをしだす連中まで現れたため、落石の生じ易い行動は慎むことにした。(本当は登るのが怖かった。)壁に取り付いている時小屋が良く見えた。とすれば小屋からも見えぬはずは無いはずで、ヤバイと思い直ぐ壁を降りる事にした。壁から降り立つ直前、何処からともなく犬が現れワンワンと吠えた。犬の背後から、いましも「そんな所で何しとんでえ」との声がかかるかと思うと気が気でなく、壁から降り立つやすぐ犬の手なづけにかかった。まだ若い犬は簡単になつき、また背後から人影が現れることも無かつ

た。時計を見るとすでに10時半だった。

それからはもち論人目を避けながら犬をお供に捜し回ったが、食樹も余り無く卵は全く無く共には逃げられ、結局午後2時まで歩き続けの登り続けで全くのスカだった。車へ戻ると駐車場は大変なにぎわいで、観光バスも来ていたりして観光客があふれていた。ここは徳島県が誇るモミジ狩の大景勝地だった訳で、おまけにこの日は土曜日だった。そしてハンパ小屋と思っていたのは茶店風レストランで、飯炊きバアさんと思っていたのはやっぱりバアさんだった。早朝からの採卵行動の結果は体全体にあふれていて、観光地には全くそぐわないので、早々に車で移動する事にした。

峠を越え高知県別府峡へでも行って捜そうかと思ったが、ここも家族づれやらアベックやらがやたらに多く、全く採集行動がとれなかった。しかし高の瀬峡よりもこちらの方が白い岩膚がたくさん見え、何だか環境が良さそうに思えた。車が通行止めなので、重い足をひきづり林道沿いに環境調査をしたところ、結構奥まで白い岩膚が続いていた。また林道は割りと整備されているので、シーズン以外は車で入れるものと思われた。良い環境にもかかわらず、高の瀬峡で体力を使い果たしていたので、3時には佐川の牧野富太郎翁像へ向かって出発していた。

ホシミスジ 飼育記録

松 井 正 人

石川県内でホシミスジが普通に見られる所は、白山地方の中宮～岩間付近はないだろうか。このホシミスジは7月より8月にしか見られない事から年1化だと思われるが、飼育によって第2回発生を見ることが知られている。(諸道秀人:1980 未発表) 筆者は1984年丸石谷の岸壁から生えているシモツケの葉裏より本種7卵を採集し室内飼育したところ、9月中に7個体総ての羽化を見たので、この飼育結果を報告する。

1984年 7月 28日 尾口村丸石谷にて7卵採集

8月 6日	2卵フ化	9月 9日	1ex 蛹化
8月 7日	5卵フ化	9月10日	1ex 蛹化
9月 3日	1ex蛹化	9月11日	1ex 蛹化
9月 4日	1ex蛹化	9月15日	1ex 羽化
9月 7日	1ex蛹化	9月16日	3exs羽化
9月 8日	1ex蛹化	9月19日	3exs羽化

個体識別していないので、どの個体がいつ蛹化し、いつ羽化したかは不明であるが、早くフ化したものから蛹化し羽化したと考えると、幼虫期は28～35日、蛹期は8～12日とばらつきが大きかった。

アオカタビロオサムシ、*Calosoma inquisitor cyanescens* (Motschulsky)は、北海道には多産するようであるが、本州に於ける記録は比較的少なく、分布の実態も把握されていない状態と考えられる。石川県に於ける記録としては、高羽・松枝(1978)に種名のみが挙げられており、又筆者は松本和馬氏による金沢市大平沢からの1♀の記録を報告している(野中、1985a)。筆者は昨年医王山に於いてオサムシ類のトラップ調査を行ったが、その際本種が比較的まとまって採集されたのでここに報告する。

★★ 記録の部 ★★

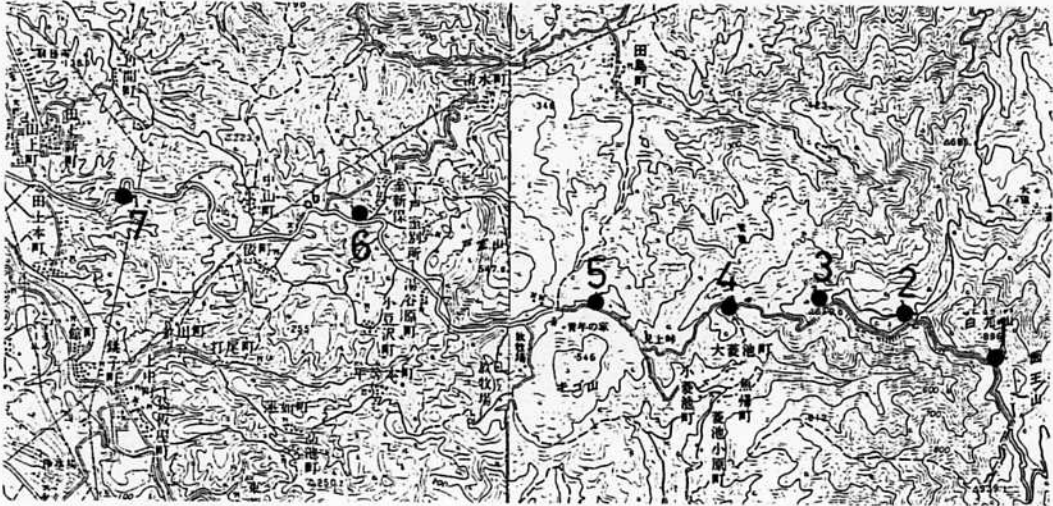


図-1 医王山に於けるトラップ設置地点

地点1	(通称フジミドリの中西ポイント)	標高	800m
地点2	(通称ゼフィルスのクリの花ポイント)	標高	720m
地点3	重山道分岐	標高	640m
地点4	医王の里	標高	500m
地点5	医王山スポーツセンター	標高	400m
地点6	戸室新保(通称アオカタポイント?)	標高	210m
地点7	坂の途中?	標高	100m

1985年5月3日、図-1の1~7の7箇所に1箇所につき10個ずつのプラスチックコップ製トラップを設置。1週間に1~2回の割りで不定期に見回り、獲物の回収とトラップ液(黒砂糖主体)の補充を行った。7月20日の見回りの際に蚊の猛攻を受け、この時点で調査は中断した。その間に得られたアオカタビロの記録を以下に記す。

1985年 5月17日	地点 6	金沢市戸室新保	1♂ 1♀
5月19日	地点 5	金沢市医王山スポーツセンター	2♂
	地点 6	金沢市戸室新保	4♂ 1♀
5月22日	地点 6	金沢市戸室新保	1♂
5月25日	地点 5	金沢市医王山スポーツセンター	1♂
	地点 6	金沢市戸室新保	1♂ 1♀
6月8日	地点 6	金沢市戸室新保	1♀
6月12日	地点 6	金沢市戸室新保	1♀
			計 10♂ 5♀

5月25日と6月8日の間は、5月28日、6月1日、6月6日に見回ったが入っていない。又6月12日の1♀はトラップに入っていたのではなく、近くの杉の樹幹に静止していたもので、腹部がふくれているので解剖したら、長さ3.5mm幅1.5mm位の卵が14卵入っていた。

★★ 妄想の部 ★★

出現期：今回は5月中旬～6月中旬にかけて採集された。北海道などでは7月にも記録されているが、春先の虫と考えて良いであろう。

出現場所：今回は標高100m～800mにかけてトラップを設置したが、アオカタビロが入ったのは200m(地点6)と400m(地点5)のみであった。ちなみに松本氏が採集した大平沢も標高250mで、金沢付近では低山地がねらい目と思われる。又、地点5、6はコナラ、アベマキ、植林杉の林で、他の地点に比べて下生えが比較的まばら(それ故トラップは極めてかけ易い)であるという印象を受けた。

最後に全く無責任な予想を述べておく。本種の石川県以西以南の記録は、皆無又は極めて少ないと思われるが、金沢付近の低山地に産する虫が分布の西南限になっているとはとても考えられず、今後、春期の調査が行なわれれば西日本からの記録が続出すると思われる。石川県では能登から加賀地方にかけての低山地に広く分布しているはずで、これは間もなく中西重雄氏によって明らかにされるであろう。

★★ 蛇足の部 ★★

オサムシマップの採集記録票(野中、1985b)では、5月25日の地点6は、2♂1♀となっている。それがここでは1♂1♀と報告したが、その訳は1♂がクロカタビロオサムシと判明したからである。まことに御恥ずかしい誤同定をここで訂正すると共に、居直って珍しいクロカタビロの記録を發表しておく。

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii* (Morawitz)

金沢市戸室新保(alt 200m) 1985年5月25日 1♂ 野中 勝採集

誤同定に気付くきっかけとなったのは、標本を見た井村正行氏の「えーっ、これも同じ種類なの？」の一言であった。カミキリ屋の氏の慧眼に敬意を表し、あわせて謝意を表したい。

文	高羽正治・松枝章(1978)	石川県の自然環境 第4分冊 p.69
	野中 勝(1985a)	翔 51 p.6
	野中 勝(1985b)	オサムシマップ 22 p.記-111

表記10大ニュースと共に“Mr.Ms.蝶談会”を12月6日(金)の例会に於いて、参加者14名によって決定しましたので報告します。1985年の残り25日については、1986年に繰り越す事にしました。この間にヒサマツを採卵した人は、悔しいでしょうが来年までの御預けです。それではにぎやかにまたにぎやか決まった10大ニュースを発表します。文中[]でくくったものは発表された“翔”のNO.をしめします。

★第1位 カラスシジミの採卵

去年の2番煎じではありませんが、これまた27年ぶりの再発見です。落葉後の採卵シーズンにはまず食樹が捜し出せない事、食樹が大木に成る事より、これまで全く採卵対象には入っていませんでした。今回は9月から採卵調査に入り、みごと採卵に成功しました。

オヒョウの特徴ある葉を目当てに、9月という早い時期より採卵調査に入った事が、成功の秘けつだと思われれます。27年ぶりの再発見ということで1985年のNO.1と成り、採卵者の松井正人氏が初代“Mr.蝶談会”となりました。尚“Mr.蝶談会”には副賞として、ドイツ型標本箱が送られます。[NO.53]

★第2位 ムモンアカシジミの採蛹

前年26年ぶりに再発見された本種ですが、その蛹となると未だに確実な蛹化場所は分かっていません。食樹の根元付近をやたらめったら捜す事により、幾らかの蛹が見付かっているに過ぎず、ましてやアリの巢中から発見された例は近年無く、この例はその意味においても全国的に価値があるニュースです。採蛹者の野中 勝氏は当然“準Mr.蝶談会”に選ばれ、副賞として虫ピンが送られます。[NO.53]

★第3位 アオカタビロオサムシの大量採集

オサムシのくせに羽が有って飛ぶことが出来、樹上生活である本種は、これまで確実な記録はほとんど知られていませんでした。ところが今回、野中 勝氏によって医王山の常設トラップ2箇所から、10数頭という大量採集がなされました。これは県内のオサムシ調査が進んでいることの、一端ともいえるでしょう。[NO.55]

★第4位 ユキワリツマキチョウの完全羽化

前年度NO.8に輝いた“ユキワリツマキチョウの飼育”の結果ですが、前年度の10大ニュース決定時(12月29日)には、このニュースは知られていませんでした。84年12月10日から翌年1月2日にかけて、3♂♂の完全羽化をみました。飼育者の金平永二氏は渡米前の慌ただしさの中、美しい生体写真と共に飼育報告をまとめています。[NO.50]

★第5位 ノコメキシタバの確認

本種は4年前に唯一頭、白峰村より金子二久氏によって採集されたものだけでしたが、今回新たに野中 勝氏によって尾口村でも採集されました。[NO.54]

★第6位 ヒメシジミの発生地確認

我が蝶談会のメンバーではありませんが、福井の木村富至氏によって尾口村より本種が多数目撃され、4 exs 採集されました。これまで本種の記録は数例しかなく、複数の採集目撃例は初めてで、発生地の可能性が十分あります。

★第7位 ヤコンオサムシの多産地発見

これまでなかなか採集されなかった本種ですが、中西重雄氏も言っているようにヒョンな事から多産地が見付かりました。しかもそれは中西会員宅の真ん前に広がる土手でした。氏は次女の鈴奈ちゃんを使い、小学校へいく前に常設トラップの見回りを行い、毎日2ケタ以上の本種を手に入れました。[NO.52]

★第8位 大道谷のギフチョウ目撃記録

白山地方における本種は、鶴来町より連続して分布し、尾口村東二口が分布の最南端でしたが、今回更に15kmも南下した白峰村大道谷に於いて、竹谷宏二氏により目撃されました。付近にはヒメカンアオイの自生地もありますので、恐らく発生地が確認されるのは時間の問題でしょう。

★第9位 白山タカネヒカゲ確認の情報

“白山でタカネヒカゲを確認した”という情報が富山方面から流れてきました。情報の出所がはっきりしませんので確かな事とは言えませんが、これまで本種を目撃したという報告も2、3ありますので、蝶談会としては気になるところです。

★第10位 宝町にジャコウアゲハ戻る

金沢大学宝町キャンパスの一画に薬学部の薬草園があり、ここにウマノズクサがあります。以前はよくここで発生していた本種ですが、本種は食草の茎をも食べる性質から、いかに食草が繁茂しようとも、食糧難となって自滅することが多々ありました。最近あまり姿を見なくなった本種ですが、今年再びこの地にて発生し、近藤征四郎氏によって手厚く守られています。

番外ニュース

今年はニュースがたいへん多く、10大ニュースに入りきれないものを番外編で御知らせします。

★ミヤマカラスシジミの生態写真撮影

採卵調査によって多数の発生地が見付かった本種ですが、20数年このかた野外で成虫を見た人はいませんでした。今年度重なる調査の結果、ついに7月19日河内村口直海において竹谷宏二氏が目撃し、翌20日にはめでたく写真撮影にも成功しました。

★タマムシ異常発生

夏の暑い盛り金沢大学宝町キャンパスでは、キラキラと輝く多数の飛行物体が観察されました。

★野中 勝氏渡米決定

ボストンへ一家そろって移住するはずでしたが、何かの手違いによってセントルイスへ2年間行く事となりました。

★会員の昆虫生態写真タウン誌に載る

金沢のタウン誌“月刊おあしす”の1ページに小幡英典氏のカラー昆虫生態写真2枚が華々しく載りました。

★ゼフィルス卵不作

昨年の豊作はNO.3でしたが、不作はやっぱり番外になってしまいました。来年はどうなることでしょうか？

★キイロミヤマカミキリの採集

これまで2頭しか採集例の無かった本種ですが、かつては本会のメンバーだった入場 登氏によって加賀海岸に於いて1ペア採集されました。

★“翔”の会誌交換始まる

我が蝶談会も一人前に会誌交換を始め、現在5団体と交換しています。この5団体の会誌より得られるものは大きく、蝶談会はさらに充実し、“翔”はさらに羽ばたくでしょう。

Self introduction

横 山 隆

自 宅 画992 山形県米沢市城西3丁目2-9 ☎ 0238-22-3252

血液型 O型 昭和31年生まれ 自営業

一応蝶を集めてますが、本格的に採集を初めてまだ6年ぐらいです。中西さんの影響で採卵よりも、ガケ掘りになってしまいます。4年半ほど京都に住んでました。いまでも京都の連中と採集に行く事があります。ちなみに京都では、ニックネーム“カバさん”と呼ばれています。本人としては、なぜカバさんと呼ばれるのかわかりません。初心者ですが宜しくお願い致します。

Self introduction

田 中 秀 夫

自 宅 画920-01 金沢市大場町東145番地 ☎ 0762-57-2302

血液型 B型 昭和27年信州生まれ 小学校教諭

信州でも新潟県境寄りの野尻湖の近くで、毎日、飯綱山、黒姫山、妙高山、斑尾山の雄姿を見て育ちました。そこはギフチョウとヒメギフチョウの混生地となっているのですが、春は忙しいのでなかなか訪れる機会がありません。そこで今年こそはと思い、今計画をたてています。雪のとけるのが待ち遠しくてしかたありません。

多くのことに興味をもっていますが、全くの初心者ですのでよろしくお願い致します。

会員の動き・しゃぼの動き

★12月8日中西氏、糸魚川へオサ掘り。こともあろうに、朽ち木からギフチョウの蛹を掘り出した。本人はマイマイが出ず御立腹。詳細は次号掲載予定。

★12月11日中西、松井、野中の3氏、松井氏宅にて対馬採集行の作戦会議。野中氏の予備調査によれば、崖はガサガサに乾いていて、カブリモドキの大量採集は難しそう。終始オサ談義に花が咲く。

★独身貴族の勝海雅夫氏、ついにあのむさい独身寮2人部屋から逃亡を計り、一戸建てへ引っ越したようです。電話も引き、嫁さんを引き込むのも時間の問題かと思われます。☎ 92-0280

★12月22日新たに1人をひっぱりこんだオサムシグループ総勢3人、雨が降るにもかかわらず積雪60cm前後の奥能登へ。輪島市から鳳至郡にかけて掘りまくり、マイマイ、アキタ、クロナガ等を永眠させた。新入生はオサ掘のあまりの凄まじさに、ただただ恐れおののくばかりで、なかなか手が出なかったとか。現在ひそかに足抜けを計画中。

★マイマイカゼを多量にばらまかれたS氏、正月にもかかわらず暇をみつけて、1人雪深い山中へピッケルを片手に出掛けるらしい。いまや発病寸前!

★来春のギフチョウシーズンに向けて、某出版では"ギフチョウ88カ所巡り"といったマニア向けの本を企画しているらしい。県内では、那谷寺、鶴来、坪野付近がノミネートされているもよう。

★君は知ってるだろうか??

蝶談会の白いカップを!!

会合で使っている白いカップは、中西夫人が会合の為にわざわざそろえた物だそうだ。～あなたも私もおそろいで、おいしいコーヒー飲めるのも、中西夫人のおかげです。アーヨイヨイ～

★1月5日寒風吹き荒ぶ北陸へ、対馬昆虫調査隊が多なる成果を上げて帰ってきた。その内容をちょっとのぞけば、

1. カブリモドキは全島に多産
2. ヒメオサの分布は標高を問わず
3. 越冬カミキリその名はタテジマ等々である。そしてここにまた1人マイマイカゼの犠牲者がでてしまい、あまりの高熱にカミキリ調査も忘れ、必死にピッケルを握り締めて耐えていたらしい。

★1月7日会員待望の新年会、香林坊"むら井"にて開催。早速カブリモドキが見せびらかされ、オサ談義が花開いたことは言うまでもない。見せ金の効果も絶大で、マイマイカゼ流行の兆しも見えていた。各自に今年の抱負を語ってもらい、会場を片町へと移した。片町では大カラオケパーティーとなり1時頃まで歌いまくった。何は共あれ愉快的な新年会であった。参加者は12名。

★バクチ好きの諸道氏、今日もあしたもパチンコ狂い。市役所御用達のパチンコ店とやらで、今日もシコシコ日用品をしこんでるらしい。8月下旬には2世も誕生することだし、どっさり紙オムツでもしこんどいてや。

★嵯峨井氏の御骨折りにより、共同購入しました標本箱が届いています。申し込み者は中西会員宅までとりについて下さい。引き続き共同購入しますので、希望者は前金で中西氏まで申し込んで下さい。10箱単位まとめましたら購入します。1箱4500円です。

★ヒロコこと松井夫人はいったい何をしてるのだろう その2

毎日楽しそうに、タッパーの中の得体の知れぬ蛾の蛹をのぞきこみニヤニヤしている。はたして、どんな成虫が羽化してくるやら。

★★中西ツアー“青海詣での旅”★★
前胸背が青く輝く魅惑のマイマイをあなたも掘ってみませんか？

岩手、対馬等の遠征経験を持ち、親不知から糸魚川にかけて掘りまくっているバリバリのトップオサ屋“中西重雄”が、リーダーを務めます。3月下旬出発予定。(注)最少催行予定人員3名

★1月15日まれにみる快晴に誘われて、オサ達君達は内灘砂丘を掘り漁った。「セアカ」が採れるとの怪情報に意気込んで出掛けたものの、サクサク掘れる砂地からは何も出なかった。しかしそこはオサ達君のこと、しぶとくも朽木からクロナガの集団越冬を掘りだした。その後は、宇ノ気の神社の境内を崩して、マイマイ、アキタ等を掘りだした。

★1月18日極楽トンボの松井氏、陽気につられてフラフラ山スキーを担いで医王山へ。見上峠から医王の里を一周してきたらしい。陽気のせいでスキーは全く滑らなかつたらとか。

★明倫のファールこと吉村先生、今度県教委に“石川県のアサマジミ”なる研究論文を提出する様子。うまくいけば2~3万円の研究助成金がもらえるとか。片町には蝶談会のボトルもあることだし、またみんなで飲みにでもいこうや。

例会の記録

12月6日(金)城南管工2Fにて本年最後の例会を開きました。師走の慌ただしい中、金沢近郷近在会員20名中、14名の会員が集合しましたが、集合状況はいつものごとく、開会20時にはわずかに3名、1時間後に忘年会流れ組が加わり、14名になったのは23時半でした。集まりが悪いですなあ。

9時頃より松井が議長になり1985年石川県昆虫界10大ニュースと、その年最も活躍した会員(Mr. Ms. 蝶談会)を決定しました。(詳細については本文参照)

その他主な話題は、嵯峨井氏“NTT電話器販売戦略とその実状”、金平氏“肌身で感じた？米国エイズ”、近藤氏“東北地方に於けるカンアオイ属の分布”小幡氏“月刊おあしすに写真が載った訳”等、多岐にわたる興味心身な話が続出しました。当日の出席者は次の通りです。小幡、井村、金平、勝海、近藤、嵯峨井、澤田、高平、野村、吉村(兄)、中西夫婦、松井夫婦。(敬称略)

と	ぶ	NO.55 1986年2月7日発行
編	集	松井正人
発	行	百万石蝶談会
事	務	金沢市大場町東871の15
		松井方
		☎920-01 ☎0762-58-2727